

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック 保幼小中連携	保幼小中が一体となり、「つながり」を深める。	教科指導[教育課程]を通じて、保幼・小、小中、小小のつながりを深める。 Plan ・合同授業研で教科や教科外(支援・養護)部会の実施 ・月1回の小中担当者会の実施	H29年度の成果をもとに、各校の交流を深め、それぞれの園・学校で実践にうつしていく。[生活面も含む] Do (掲示物・カリキュラム・連携カリキュラムなど。) ・月1回の小中担当者会の実施 ・合同授業研の実施	H29年度・H30年度の成果をもとに、目標実現にむけて、実践等の交流を深める。 See ・課題を把握し、改善していく。 ・月1回の小中担当者会の実施 ・合同研修会の実施 ・学校行事での連携
確かな学力の育成	『次期学習指導要領を見据え、『主体的・対話的で深い学び』の実現ができるよう改革を進める。』	『主体的・対話的で深い学び』の追求 ・朝の読書 ・学び舎(放課後学習会) ・研究授業・研究協議の実践 ・校内研修 ●growing up planの職員周知 ●今年度のテーマの周知及び実践交流 ・授業改善の取り組み(ビデオ交流など) ・授業交流(年間を通じて) ・授業頑張ろう週間(定期テスト後) ・ユニバーサルデザイン(教室等環境整備の観点から) ・ICT教育の推進 スクリーン教室常設設備	『主体的・対話的で深い学び』の実践 ・朝の読書 ・学び舎(放課後学習会) ・研究授業・研究協議の実践(西陵中ブロック-学びのシンポジウム対象) ・授業改善の取り組み ・授業交流週間(11月) ・授業頑張ろう週間(定期テスト後) ・校内研修(12月) ・ICT教育の推進	『主体的・対話的で深い学び』の実現 ・朝の読書 ・学び舎(放課後学習会) ・研究授業、研究協議の実践 ・授業改善の取り組み ・授業交流週間(11月) ・授業頑張ろう週間(定期テスト後) ・テスト前勉強会(各学年) ・校内研究授業(6月、12月) ・ICT教育の推進
豊かな人間性を育む	互いの違いを認め合い、集団作りを深める。	人権の観点から ・新制服の導入に伴い、男女共生教育の理解を深める。	人権の観点から ・新制服の導入 ・男女共生教育の取り組みを進める。	人権の観点から ・男女共生教育をはじめ、お互いの違いを認め合い、集団作りを進める。
平和学習				
健康・体力の増進	調和のとれた体力を身につける。	男女とも体力テストにおいて全国平均を上回る項目を1つ増やす。 授業の準備運動にストレッチ運動を追加する。相手の状態にも気づいて欲しいので、2人組の運動を追加し、柔軟性の向上に取り組む。 カリキュラムのバランスを取る。 球技の授業時に体の使い方を指導に重点を置く。またウォーミングアップ時にボールを使用した運動も適宜取り入れていく。 ・食育や安全・防災教育の推進	男女とも体力テストにおいて全国平均を上回る項目を2つ増やす。 授業の準備運動にストレッチ運動を追加する。相手の状態にも気づいて欲しいので、2人組の運動を追加し、柔軟性の向上に取り組む。 カリキュラムのバランスを取る。 球技の授業時に体の使い方を指導に重点を置くだけでなく、日頃の筋力トレーニングを工夫して体力の向上を目指す。 ・食育や安全・防災教育の推進	男女とも体力テストにおいて全国平均を上回る項目を3つ増やす。 授業の準備運動にストレッチ運動を追加する。相手の状態にも気づいて欲しいので、2人組の運動を追加し、柔軟性の向上に取り組む。 カリキュラムのバランスを取る。 球技の授業時に体の使い方を指導に重点を置くだけでなく、日頃の筋力トレーニングを工夫して体力の向上を目指す。 ・食育や安全・防災教育の推進
支援教育の充実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

良好な結果であった。

②書くこと

概ね良好な結果であった。

③読むこと

良好な結果であった。

④言語事項

良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった。

②短答式

良好な結果であった。

③記述式

良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

無解答率の0表示は10問中6問。その他の4問についても、全国と比較しても低い数値がでているので、コツコツと取り組んでいく力は身につけていると思われる。

分析

今年の結果は、領域の「②書くこと」以外は、良好な結果であった。

「②書くこと」は、書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討し、伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く作業である。授業の中で「考えて書く」ことを意識させ、生徒の力をさらに伸ばす指導を検討する必要がある。

日々の授業やテストを通じて、課題への前向きな取り組みを評価していることで、今回のテストでも、生徒があきらめずに課題に取り組み、無解答率が全国平均に比べて低い傾向となったのではないかと考える。

全ての項目で全国平均を上回っているが、より高い力を身につけさせていきたい。

○●数学●○

数学

(領域ごと)

①数と式

大変良好な結果であった。

②図形

良好な結果であった。

③関数

大変良好な結果であった。

④資料の活用

良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった。

②短答式

大変良好な結果であった。

③記述式

良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

分析

全体的に、良好な結果であった。特に関数の問題が、全国平均と比較してよくできていた。また、計算を中心に基礎的な問題が比較的よくできていたと考えられる。

無解答率も全国平均より低く、あきらめずに解答しようという姿勢の生徒が多いと考えられる。

領域別では、関数領域の正答率が他領域に比べ最も低いので、授業を通して関数領域の学力が上がるよう取り組む必要がある。

○●英語●○

英語

(領域等)

①聞くこと

概ね良好な結果であった。

②話すこと

概ね良好な結果であった。

③読むこと

良好な結果であった。

④書くこと

大変良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった。

②短答式

大変良好な結果であった。

③記述式

良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

平均正答率が、どの設問においても全国平均を上回っている。

「書くこと」の領域や短答式の問題形式の設問においてはそれが顕著である。

分析

全体的に、概ね良好な結果であった。

特に、「書くこと」の領域において正答率が高かった。英語活用の4技能(読む・聞く・話す・書く)を比較すると、「読む・書く」の正答率が高く、「聞く・話す」の正答率が低い傾向にある。

また問題形式としては、選択式よりも短答式や記述式の正答率が高く、無解答率も低いことからしっかりと問題文を読み、取り組むことができているといえる。

今後の取り組みとして、授業内においてリスニングやスピーキングにもさらに力をいれ、バランスよく4技能を高められるよう工夫していくことが大切である。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・全体的に、全国平均を上回っているものの、国語と数学において平均正答率が低下した。
- ・これまで高い傾向にあった無解答率であるが、少し改善され、過去 10 年間で最も良好な結果となっており、意欲的に解答する姿勢がみられたといえる。
- ・今回初めて行われた英語においても、全国平均を上回っており、特に短答式の問題において良好な結果がみられた。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・学力高位層の平均正答率が過去 5 年間で最も低い結果となったが、昨年課題であった学力低位層の平均正答率が上がり、平年並みとなった。
- ・エンパワー層の平均正答率は概ね良好な結果であるが、一喜一憂することなく、これまで同様「一人も見捨てへん教育」を念頭に、日々の授業においてきめ細かい指導や個に応じた指導など課題をやりきる力をつける等の取組みをさらに進めていきたい。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

*昨年度に引き続き、下記の 4 項目について取り組み、その成果をして検証している。

朝の読書

- ・8:30 の予鈴から 10 分間を読書の時間とし、取り組んでいる。生徒は予鈴で入室し、各自持参した本または学級文庫の本を読む習慣が確立している。
- ・8:35 の本鈴に遅れる生徒はほとんどいなくなった。
- ・図書委員会とも連携し、学級文庫の本の選定や管理を行っている。
- ・クラスの仲間と、今読んでいる本の交流を行い、本への興味関心を高める取組みも推進している。
- ・生徒会とも連携し、昨年度より、各教室に英和・和英・国語・漢和辞典を配置している。

授業改善の取組み

- ・定期テスト前後に各学年の状態に応じて、チャイム着席・服装・授業準備などの点検活動を学級委員会、生活委員会と連携して取り組んでいる。授業が終わると次の授業の準備、チャイム着席、授業中は主体的に挙手をして発表する、私語はしない等、授業に取り組む姿勢を見直す機会でもあり、「授業を大切にする」気持ちを常に持ち、実行していくための取組みである。
- ・「本時の目標」、「ポイント」のステッカーの活用は継続中。各教科における ICT の有効的な活用は各教室の電子黒板が昨年度の 2 学期に設置されてからより顕著になっている。2 学期に導入されたタブレットについても、様々な教科の授業で効果的な活用が検討されている。

研究授業・研究協議の実践

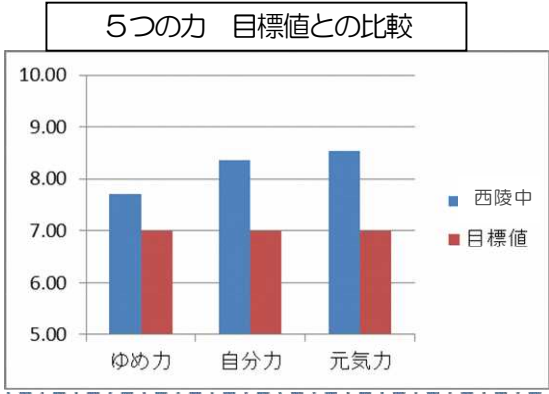
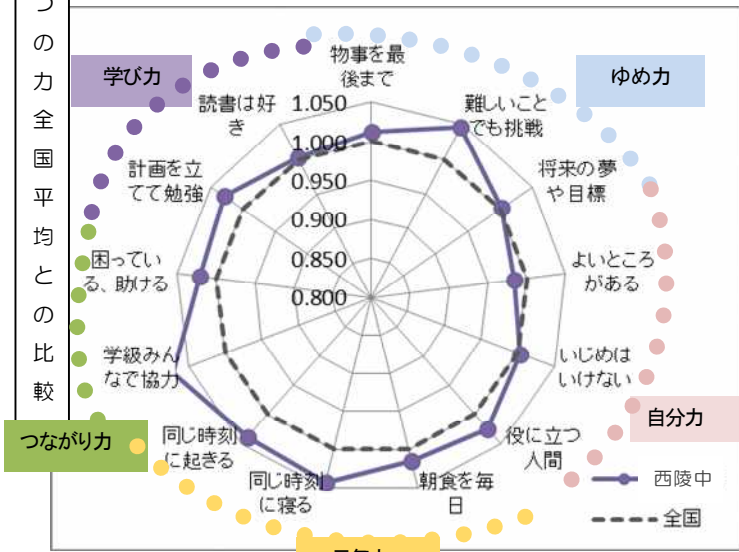
- ・年 2 回の研究授業 6 月に 2 年、12 月に 1 年で、全クラスで研究授業を行い、全教員が各教室に分散し参観、その後研究協議を行っている。
- ・校内の研究テーマ『主体的・対話的で深い学び』を見据えた授業実践について、参観した教員で振り返り、授業力の向上を図る。また、研究授業のみでなく、積極的に授業見学することを奨励している。
- ・今年度は、中学校ブロック(本校及び 4 小学校、幼稚園)で夏季に合同研修を行い、不登校対応について連携の重要性を再確認した。
- ・来年度も合同研修を実施し、全教員で参加し、研究協議を行い、学びを深める場とする。

学び～舎 (放課後学習会)

- ・放課後の自主学習の場として、毎週木曜日に開いている。生徒が自分の課題を認識し、自主的に参加する場であり、毎週参加する生徒も出てきて参加者は増加傾向である。また、分からないことを安心して聞ける場としても定着してきた。学び～舎では、生徒たちは担当教員だけでなく、学習支援員からもサポートを受けている。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力全国平均との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較レーダーチャートは13項目、目標値との比較棒グラフは、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と元気力のみとなっています。

分析

今年度は全国平均とほぼ横ばいの数値を示している。学習状況調査をみると、

- 朝食を食べている生徒が85.5%と高い数値を示した。起きる時間や寝る時間が決められているなど、基本的な生活習慣が身につけている。これは保護者の協力が大きいと思われる。予鈴登校もきちんとできている。
- 「計画を立てて勉強している」と答えた生徒の割合は高い数値を示した。日々の授業の中で、学習を積み重ねることの重要性を意識し、継続した学習が定着している生徒が多いことがわかる。
- 自分によいところがあると認識する生徒の割合や将来の夢や目標をもっている生徒の割合は高くないが、難しいことに挑戦しようという意欲は高いことが示されている。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないと思いますか」の問いに8割程度、肯定的な意見を示している。また人の役に立つ人間になりたいですか」との問いについては全国平均を上回り、何か社会の一員として社会のために役に立ちたい活躍したいと考える生徒は多い傾向にある
- 6割程度の生徒が「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったこと」があると回答しており、日々の学校生活で他者とはつながることの大切さを感じていることがわかる。相手の気持ちを考えて行動することの大切さや仲間づくりなど学活や総合的な学習の時間を通して、人間形成づくりに力をいれ、社会に貢献できる力を養いたい。

取組み

つながり力

- 生徒会活動や委員会活動、部活動など縦のつながりもしっかりと意識して取り組んでいる。
- ユニバーサルデザインの観点から、『本時の目標』『ポイント』のステッカーを各教室に常設し子どもたちの学びにつなげている。昨年度の電子黒板設置以降 ICT の活用は飛躍的に伸びている。またタブレットの活用を推進する職員研修を行い、様々な教科で授業実践をすすめている。[学び力も含む]
- 学級集団作り・班活動・委員会活動・リーダーの育成についても取組みを進めていきたい。

自分力

- 「人の役に立つ人間になりたい」という意識は昨年に続き、高かった。これは日々の学活の取組みや道徳の授業実践の取組みが成果を上げているものと思われる。「他者への思いやり」「きまりを守る」という観点に力を入れながら、さらなる取組みを進めたい。

ゆめ力

- 行事などに取り組む姿勢は高く、夢や目標を持っている生徒の割合は例年より上昇傾向にある。自分の目標へ向かう進路決定や2年生で行う「福祉体験」等を通じて、視野を広げ、体験をしていく中で、自分の将来の夢や目標をもつことへの手がかりをつかんでほしい。

学び力

- 教師間で授業力を高めるよう意識しつつ、日常的な相互の授業参観を推奨している。授業やさまざまな学びを通じて、「できる」喜びを実感するとともに放課後学習会への積極的な参加など、学習意欲を高めるよう働きかけている。

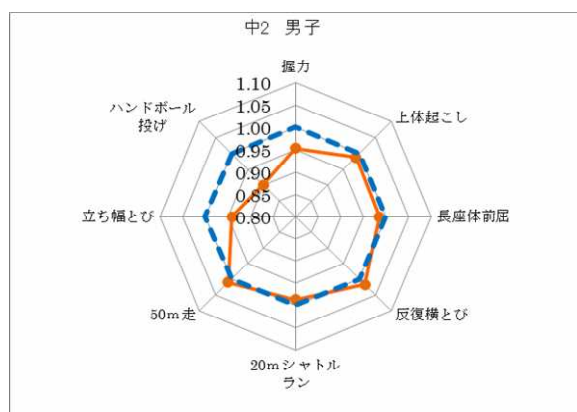
元気力

- 体育の時間に毎回補強運動を5種、丁寧に行っている。
- 号令時の発声を全員で行うことを、全学年の体育の授業で徹底している。

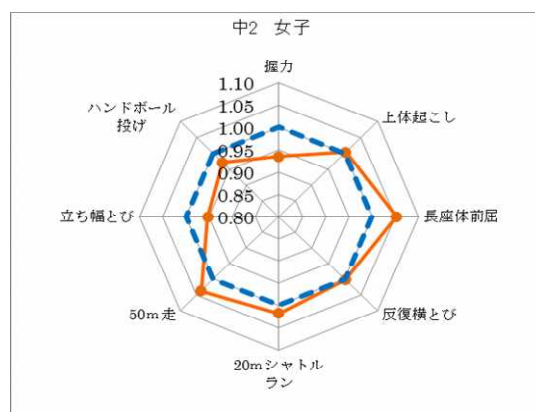
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

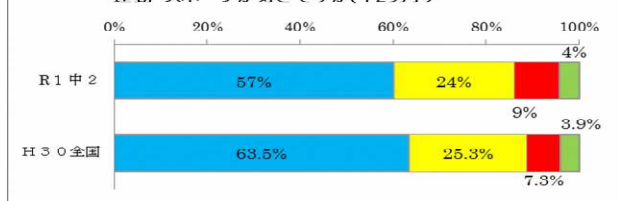
男子 (中2)



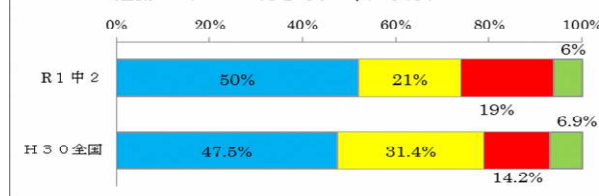
女子 (中2)



運動・スポーツが好きですか(中2男子)



運動・スポーツが好きですか(中2女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

男子

全国平均を上回る種目はなかったが、茨木市の平均を上回っている種目は複数ある。握力、長座体前屈、反復横跳び、20m シャトルラン、50m 走は上回っている。また、合計得点も、茨木市の平均を0.72 点上回っている。一方で、上体起こし、立ち幅跳び、ハンドボール投げは、茨木市の平均を下回っている。

女子

長座体前屈と50m 走は全国平均を上回っている。また、反復横跳びと20m シャトルランとハンドボール投げに関しては、茨木市の平均を上回っている。また、合計得点も、全国平均には及ばないものの、茨木市の平均値を2.21 点上回っている。立ち幅跳び、握力、上体起こしは、茨木市の平均を下回っている。

男女ともに立ち幅跳びは茨木市の平均を下回っている。跳躍力を高める動作(連続ジャンプなど)に取り組み、来年度の改善を図りたい。

取組み

毎回の授業で基礎体力向上のために補強運動(腕立て伏せ、腹筋、背筋、連続ジャンプ、もも上げ、馬跳び、補助倒立など)を行うようにしている。学年ごとに回数を変え、強度を上げている。昼休みのボールの貸し出しで、サッカーボール、ドッジボール、バスケットボールを許可し、ボールの個数も増やし、外で遊ぶことを促している。

また、測定に際して、1年前の記録を知らせ、個人的な目標を持たせている。